

香川芳子

女子栄養大学学長



未曾有の大災害をもたらした東
北地方太平洋沖地震から1か月、
被災されたかたの深い悲しみに心
からお見舞いを申し上げます。一
歩一歩復興への道を歩まれますよ
うに、そして強く生き抜き、体験
を後世に語り継いでください。

多くのかたは、「食べる」ことの
たいせつさを改めて実感したこと
でしょう。限られた水や熱源、食
料で、命をつなぐためにいかに食
べるか——その知恵と技を持つ
のが、食を学ばれたかた、そして家
庭の食を担ってこられた皆さまで
す。その力が人々の復興への暮ら

しを支え、人々の健康を支えます。
状況は異なりますが、65年前、

香川栄養学園は東京大空襲で校舎
や宿舍のすべてを失いました。そ
れでも学生を連れて群馬へ疎開し、
農作業をしながら農家の蚕室で授
業を続けました。これは栄養学の
学びが国民生活に重要な役割を果
たすと信じていたからです。焼け
野原でゼロからの再出発を決意し
ました。それが現在につながりま
した。長い時間はかかりますが復
興を果たすという強い気持ちを持
ち続けてください。かならず道は
開けます。心から応援しています。

生きていることを感謝し
復興のために
皆で力を合わせましょう